

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。綱島小学校では、東急バス株式会社と連携して実施しました。
- 綱島小学校は、東急東横線綱島駅を最寄駅とし、駅から徒歩7分と駅に近く周りには商店街などがあります。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する①「バスやタクシーのバリアフリーに関する座学」とともに、東急バスの協力のもとバス車両を用いて②「視覚体験及び車いすの利用・介助体験」をクラスごとに行いました。
- ①の座学においては、**バスやタクシーのバリアフリーの機能や導入台数などの現状や、モビリティマネジメントの大切さ等**、様々な“知識”を伝えました。
- ②の体験授業においては、バス車両を用いて、バスのバリアフリーの機能を見たり、タオルを目に巻いてのバスの乗降や車いすを利用した介助体験を行いました。

■ 交通バリアフリー教室について

【日時】 令和4年 11月 25日 (金)
1～4校時 9:00～11:50
【対象】 横浜市立綱島小学校
4年生 1～3組 (115名)

【内容】

- ① バスやタクシーのバリアフリーに関する座学
- ② 視覚体験及び車いすの利用・介助体験
→クラスごとに分かれて実施



©株式会社パスコ ©ジオテクノロジーズ株式会社



車いす体験の様子



視覚体験の様子



2 「バスやタクシーのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、『みんなに知ってほしい「バス」のこと』と題して、車いすの方もお年寄りも、「**誰もが同じように使える**」バスのバリアフリーや、同じ公共交通機関であるタクシーのバリアフリーについて説明しました。
- 普段からバスを利用して習い事や塾へ行っている児童がクラスの半数いましたが、車で移動する児童も少ない様子でした。
- バリアフリーの現状に加え、バスの利用者の減少といった公共交通の取り巻く現状を伝え、「**このまま利用者が減ってしまうとバスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 今後は「**クルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと**」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝え、授業を終えました。

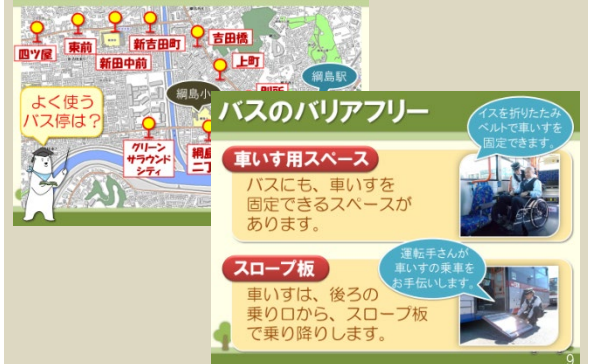
おわりに

- 綱島小学校のみなさんは授業を聞きながらたくさんメモを取っており、座学や体験授業を通してより深く福祉のことについて学べたのではないかと思います。
- 交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することや足が上がらない状態でのバス乗降の大変さ**を感じた児童がたくさんいました。
- バリアフリーの体験の後は東急バスの運転士にたくさんの質問をし、バリアフリーに限らず、バスの様々なことを学んでいる様子でした。
- 今回の授業を通して、「**誰もが同じように使える**」ことの**大切さ**を伝えることができました。
- 今回のバリアフリー教室により、子どもたちがバスへの関心を持ち、**バスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなってほしいと思います。

■ 座学に用いた教材

①説明用パワーポイント(一部)

学校近くのバス停



②小学生向けマンガリーフレット



座学の様子